

同志社大学

2015年度 個人研究費研究経過・成果報告書

2015年 3月 5日提出

所 属	職 名	氏 名
スポーツ健康科学部	教授	竹田正樹
研 究 題 目	幼児期における運動トレーニングが 体力・社会的スキル及び認知機能に及ぼす影響	
研 究 成 果 の 概 要	<p>本年度、上記テーマにて研究に取り組んだ。現在の状況としては、倫理審査の承認に時間がかかり、思うような計画で進めることができなかったが、2月初旬に倫理審査の承認が得られた他、現在研究を遂行中である。</p> <p>具体的には、ある幼稚園にて年中及び年長の園児 72 名に対して、体力レベルが同じになるようにランダムに集団スポーツ群と個人スポーツ群に分類し（36 名ずつ）、それぞれ集団で行うスポーツと個人で行うスポーツを課し、体力、社会的スキル、実行機能に及ぼす効果を検証している。分類に用いた体力レベルについては、初回に体力テスト（垂直跳び、開眼片足立ち、平均台歩行、立位体前屈、伏臥上体反らし、ジグザグ走とし、それぞれ平均値と標準偏差に基づいて 5 段階評価を行い、全種目の合計点を算出し、合計点の高いものから順に 2 群に分類した。</p> <p>社会的スキルおよび認知機能はアンケート調査にて行っている。社会的スキルについては、社会的スキル調査アンケートを用いて保育士に答えてもらい、認知機能については幼稚園児の親および保育士を対象に実行機能調査アンケートにて行っている。運動トレーニング開始前 (pre test) とまったく同様の方法で、全てのテストを 2 ヶ月後 (post test) にも行う予定である。Post test は 3 月になる予定で、データをそろい次第分析を開始する予定である。</p> <p>運動トレーニングは、集団スポーツ群はボールゲームや集団ゲームなど集団でなければならぬスポーツを実施することとし、個人スポーツ群は、鬼ごっこや縄跳びなど、一人で行うスポーツを行うようにしている。両群ともに 1 回あたり 45 分、3 日/週、2 か月間とし、現在遂行中である。</p>	